私が学生時代に実験を教授いただいたある先生は，「百聞は一見に如かず，一見は実験に如かず」が口癖でした。コンピューターの性能が飛躍的に向上し，数値シミュレーション技術が発達，発展している昨今ですが，鉄道に限らずものの研究開発には，やはり実験が必要不可欠で，あらゆる技術分野でさまざまな実験が実施されています。

今月号は「鉄道総研の試験設備」と題して特集を組み，鉄道固有の技術分野で活躍する試験設備として，軌道，駅（施設分野），信号，集電（電気分野），ブレーキ（車両分野），乗り心地（人間科学分野）に関するものを紹介しました。鉄道が対象とする技術分野の裾野の広さを実感いただけたのではないでしょうか。

さて，来月号の特集は「鉄道の高速化技術」です。新幹線に限らず在来線についても，安全性の確保を前提とした“さらなる高速化（速達化）”，“快適性の向上”が求められています。鉄道総研では，それらに資する研究開発を多分野にわたり行っていますので，その一部を紹介します。どうぞご期待ください。（N.O.）